

平成20年度 森プロ事業実績：椿森プロ

(平成21年3月末現在)

平成27年度実績

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		340	90	11	12%		516
作業道(m)		6,320	6,000	6,174	103%	作業路含む	24,000
間伐等	面積(ha)	44	75	34	45%	利用＋切捨	475
	材積(m3)	3,000	3,000	3,697	123%	支障木含む	21,000
備考							

H20年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 1,500円/m3(予定)

施業集約化の状況

- ・森林組合が地元精通者の協力を得ながら森林所有者へ説明を行い、集約化を進めている。

施業プランの活用状況

- ・精算時において施業プラン(書式)を用いて森林所有者へ説明及び精算を行った。

施業プランナーの養成状況

- ・地域総合プランナー: 1名(H19実績)
- ・森林施業プランナー: 1名(H19実績)

作業道の状況

- ・作業道開設目標: 主伐期まで(30年以上)継続的に使用可能な作業道の開設。
(幅員3.6mを原則として、100m以内の作業路や30度を超える急傾斜地では3.0mも併用)
- ・作業道開設方針: ①絶対的な安定路盤の整備、②細心にして大胆な集排水対策、③可能な限りのメンテナンスフリー。
- ・作業道の開設は、安易に作りやすいところに作るのではなく、100年を通して一番利益の上がる場所に「道をレイアウトする」。

作業道開設



作業道の開設状況

- ・伐採チームと掘削チームの連携により必要最小限の伐開幅で開設。
- ・レキと土とを適度に混合、徹底的な転圧作業を行う。
- ・転石は路肩や盛土に埋設し、補強。

作業道開設後



完成した作業道

- ・8tトラックが走行可能な幹線作業道を整備。
- ・排水は分散化。雨が降ったときに雨水の流れを確認して排水位置を決定。
- ・丸太組工法により道の崩壊を防ぎ、安全性を向上。

作業システムの状況

- ・平成20年度の素材生産性: 最大65~75m³/日・3人の生産体制を確立。
- ・木にさわらないことを徹底させることにより、コストダウンを実現。
(メインシステム: チェンソー(伐倒)→グラップル(集材)→フォワーダ(運搬)→チェンソー(造材)→グラップル(積込等))
(※土木機械を改良した日本の林業機械を活用した場合の車両系モデルの限界に挑戦)

伐材工程



チェンソーで作業道に向けて伐倒し、
グラップルで長材のまま積み込み。

造材工程



造材・仕分けは広い土場(平場)で作業の安全性と効率性を確保。
造材担当者が、曲がりや市場動向に合わせて造材。付加価値の高い木材生産が可能。

運搬工程



フォワーダは、作業道の痛みが少なく、急傾斜にも対応。
長材を大量に運搬できる。

その他

- ・広く県民を対象に森プロのPRと森林整備の意義を普及啓発するため、「椿森林づくりプロジェクト見学ツアー」を開催。
- ・森プロをはじめとする林業関係者及び他業種からも幅広い人材交流を図るため、研修・視察の受け入れに積極的に対応。
- ・椿森プロの先進事例を明文化。(作業路開設・木材生産システム虎の巻、丸太組工法マニュアル)
- ・民間事業者が、国・県のフォーラムや新聞等で森プロの必要性について広報活動を実施。

森プロの成果

- ・路網整備と高性能林業機械を組み合わせた長伐期・非皆伐による森林づくりの一つのモデルとして実証・確立。
- ・現地での素材生産ラインの再構築により、計画を上回る実績を達成。
- ・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識を高揚。
- ・森林組合の利用間伐に向けた選木や作業道の設計監理技術の向上。

今後の課題

- ・森プロ1期生として、県内外への森林づくりの指導・啓発。
- ・組合経営や事業地の損益分岐把握のため、森林施業プランの作成、運用が必要。
- ・森林組合の経営合理化に努め、コストダウンを図る。